

令和5年度 半田市総合計画市民評価委員会 議事録

開催日時	令和5年10月11日(水)	14時00分～15時30分
開催場所	半田市役所4階 会議室404	
会議次第	【議題】 第3章 基本施策1「地域福祉」 (1) 所管課長説明 (2) 質疑 (3) 評価	
出席委員	(委員長) 千頭 (座長) (委員) 曾根、杉本、伊藤 ※敬称略	
事務局	企画課長、企画課(倉野)	
出席職員	地域福祉課長、生活援護課長、高齢介護課長、健康課長、子育て相談課長	
議事概要		
(1) 所管課説明	資料及び事前質問回答に基づき、説明(地域福祉課長)	
(2) 質疑	<p>(委員)</p> <p>資料により、地域福祉において様々な部署が関わっていると知ることができた。またふくし井戸端会議(以下、井戸端会議)についても、地域の現状に沿って様々なテーマで開催していることがわかった。井戸端会議は地域福祉課が中心に実施し、ポイントによっては他部署と連携しているという認識でよかったか。他部署との関わり方を知りたい。</p> <p>また、井戸端会議以外で、福祉関連部署がどのように関わっているのか教えてほしい。</p> <p>(地域福祉課長)</p> <p>井戸端会議については、地域福祉課の担当業務であり、社会福祉協議会(以下、社協)と連携して開催しており、地域の方とも交流しながら課題やテーマを抽出している。しかしながら、井戸端会議は地域全体の話をする事が多く、高齢者・障がい者などの個別案件に限定しているわけではない。例えば、各地区にお助け隊(地域のちょっとした困りごとを解決する地域団体)があるが、乙川地区にはないためどのように助け合おうか、など幅広い課題について話し合うことが多く、他部署を巻き込むことは少ない。</p> <p>半田市では第2次地域福祉計画(R3～7)を策定し、地域福祉に対するビジョンや理念を掲げている。本計画の下に高齢者や障がい、子育て等の個別計画が紐づいている。関連する会議の数などを示すことは難しいが、市民が抱えている問題</p>	

は、1つの部署だけで解決できることはほとんどなく、庁内以外に社協や民間福祉事業所、弁護士などにも関わってもらい、解決にあたっている。

(委員)

色んな部署や会議、〇〇サポーターなど、福祉に関連するものが多くあることはわかったが、半田市の地域福祉全体のシステムについて見える化したものがあると、市民もわかりやすくなり、当事者でなくても、困っている人がいたときに然るべき部署へ案内できるのではと思う。

(地域福祉課長)

全体のシステムを表したものはない。

(生活援護課長)

個々の相談について、経済的な内容かと思えば実は家庭環境に課題があるなど、複雑化・複合化の傾向にある。そこで、生活援護課では福祉の総合相談窓口として「くらし相談室～あんしん半田～」を開設し、どこに相談すべきかわからない方でも一旦は受け止め、内容に応じ、関係部署へ繋いでいる。パンフレットや名刺サイズのPRカードを作成し、市内へ周知を図っている。困っている方がいたときには、まずはくらし相談室へ案内いただきたい。

(委員)

トイレでも名刺サイズのカードを見かける。

(地域福祉課長)

困っている方が市役所まで来ることができれば、担当部署に繋げる体制はもちろん整っている。では市役所に来られない人はどうするのか。半田市では、市内に多く点在する福祉事業所を「福祉相談窓口」として担うよう連携しており、市役所まで行けない、ハードルが高い方は地域にある身近な窓口で受け止められるように整備している。その相談窓口で解決するというよりは一旦相談を受け止め、行政や社協へ引き継ぐ役割としている。

(委員)

パンフレットがあるのは助かる。トイレなども確認してみる。

(地域福祉課長)

補足として、現在一部の地域では、その地域にある福祉相談窓口（福祉事業

所) を地図上に表示できるスマートフォンアプリを開発しており、将来的には市内全域に展開したい。

(委員)

就労支援について、企業と行政との連携について知りたい。企業側からすると、いきが
いとして求められたとき、誰もが働きやすい環境を提供するという役割を担うことができ
るが、雇用するまでには至らないケースもある。そういったときに行政と連携できる仕組
みがあれば

(地域福祉課長)

半田市障がい者自立支援協議会の構成員には、商工会議所職員もいるため、就
労に関する出前講座やフォーラムなどを一緒に開催したい、という話はしているがアプ
ローチは少し弱いと感じている。

(委員)

特別支援学級の子どもが年々増加している中で、行政と企業が連携することで受け
皿がしっかりあるまちだとアピールできれば企業としても雇用しやすい。
現状は、知人からの紹介などで雇用することはある。その場のご縁だけで雇用するの
ではなく、制度としてあれば企業としても積極的に雇用に繋げていけると思う。

(子育て相談課長)

半田市障がい者自立支援協議会の専門部会の1つに子ども部会があり、放課後
デイサービスや児童発達支援事業所等で構成している。子どもの将来を見据えて、
特別支援学級の子や家族、学校に対し福祉事業所はこういう仕事をしている、こう
いう人たちが働いている、というガイダンス(事業所説明会)を地域福祉課と連携
し、年に数回開催している。そこで事業所がPRすることで、障がいの有無や程度に
関わらず、「半田市にはこんな未来があるよ」と保護者や先生に知ってもらう機会に
なっている。また夏休みには事業所バスツアーも開催し、雇用のみならず、放課後
にはこんなところで過ごしている、ということを知ってもらう機会としている。

(委員)

一般企業は参加しているか。行政、事業所、企業の三角形ができるといいと思う。

(子育て相談課長)

放課後デイサービスや児童発達支援事業所が中心であり、一般企業は参加してい
ない。一般企業も巻き込んでいく、ということになれば相談させてほしい。

(委員長)

企業は就労支援の大切なステークホルダーの1つ。行政としてもそういった位置づけとして認識することが必要。

(地域福祉課長)

障がい者の就労は重要な課題だと認識しているが、庁内の所管において、「就労」の視点からみると「産業課」が担当部署となり、「障がい者」に関しては「地域福祉課」が担当となっている。地域福祉課では、就労より手前の、就労に結びつくための土台づくりや福祉サービスを提供している。福祉施策としてどこまで踏み込むべきなのか、ジレンマを感じている。

(委員)

相談する親としては、子どものときには放課後デイサービスがあるが、その先の社会人になるまでの道筋がどうなっているのか不安を抱えている。部署を跨ぐことなく連携できていると良い。

(地域福祉課長)

ここ2年ほど、特別支援学校の先生や保護者を対象にしたフォーラムやガイダンスを開催しており、一般就労に向けてどういった支援策や福祉サービスがあるか、丁寧に説明を行っている。

(委員)

ひきこもりや不登校の子どもに対し、改めて具体的な仕組みを教えてほしい。また、卒業後も、子どもたちへアプローチは続いているのか。

(地域福祉課長)

市内にスクールソーシャルワーカー（以下、SSW）を配置しているが、小中学校18校に対し現在1名しかいない。そこで、各中学校区に配置しているコミュニティーソーシャルワーカー（以下、CSW）や関係機関とも連携し、伴走的な支援を展開している。また、中学卒業後の経過の把握にも努めている。高校へ進学できても、その人が抱える問題が解決しておらず、中退しそのまま無職となり（＝中卒無業者）ひきこもってしまうケースも少なくない。SSWは小中学校に関わる問題が対象ではあるが、CSWは年齢関係なく経過把握に努め、アプローチを続けている。

(生活援護課長)

中学校の卒業を控え、まだ問題がある生徒については、くらし相談室へ引き継ぐようにしている。

(委員)

家庭側から相談はあるのか。

(生活援護課長)

子どもが悩みを抱えていても、その家庭自体に原因があることが多く、家族が相談に来ることは少ない。こちらからアプローチをしていき、関係部署と連携して、関係を途切れさせないようにしている。

(委員)

CSW はどこにいるのか。

(地域福祉課)

社協に常駐している。

(委員長)

大人になってから発達障がいがあると認識する方が一定数おり、特別支援学級などを經由しないまま、通常の入学試験で大学へ進学する方がいる。勉強している分には問題ないが、コミュニケーションがうまくとれず就職しようとした途端に競争に負けてしまうケースがある。しかし障がい者として理解してもらった上で雇用されるとすごく活躍するケースがある。原因の1つとして、保護者が認めたくない場合が考えられる。こういった、弊害が起こるまで福祉から外れている方たちをどうキャッチするかが難しいと思う。

(生活援護課長)

生活保護の相談を受ける中でなかなか仕事が続かない、という人は一定数いる。話を伺い生活状況を知ると、発達障がい疑われることがある。しかし、ある程度の年齢がきていると、遡って療育手帳をとることが難しく、手帳はないが障がいがあると疑われるグレーゾーンの人が増えている。幼少期に気付き、早めに手帳を申請し、福祉サービスに繋ぐことが大切である。

(委員)

障がい者手帳をとるのに年齢が関係しているのか。グレーゾーンにならないよう、早い段階で気づく仕組みが必要と感じる。

	<p>(生活援護課長)</p> <p>大人でも取得することは可能である。しかし、医師に診断書を作成してもらう際に、当時の IQ レベルが分からず、学生時代の様子を聞き取る必要があるなど非常に難しい。引きこもりの相談を受ける際、初期の段階であれば医師へ繋ぐなど対応しやすいが、年齢を重ねると病院へ行きたがらず支援に結びつきづらい。</p> <p>(委員)</p> <p>世代別の発達障がい者数は把握しているか。</p> <p>(子育て支援課長)</p> <p>すべてを把握はできていないが、子どもに限っては、発達障がい者を全数把握しており、保護者とコミュニケーションをとっている。小学校高学年や中学生になってからでは遅く、幼少期の頃から医師や福祉サービスに繋がないと将来引きこもりにもなってしまう。そのため、乳幼児健診等で何かしら懸念がある場合は必ず保護者へ確認するようにしている。市内にはふたば園、つくし学園と2つも公立の発達支援学校あるのでとても良い環境と思う。</p> <p>(委員)</p> <p>井戸端会議に戻るが、とても良い事業だと思う。どのようにテーマを決め、どこで告知しているのか。</p> <p>(地域福祉課)</p> <p>中学校区ごとに開催しており、まずは地域福祉課と社協でテーマを検討し、その後会議で説明し、決定している。コロナ前は回覧板で周知していたが、マンネリ化や同じ参加者ばかりになるなどの課題があったため、現在はやり方を見直し、人が集まる場にこちらから出向くようにしている。</p>
(3) 評価	<p>(委員)</p> <p><A 評価></p> <p>地域福祉、高齢者福祉、障がい者福祉それぞれが充実できており、また、行政、社協、福祉事業所全体が先駆けて事業を展開しているように感じた。また、地域のサロンに対してもサポートできている。評価を AA にあげるためには、ふくし相談窓口をはじめ、市のサポート体制の周知が十分できているのか改めて確認しアプローチ強めるとともに、就労支援においては産業課とも連携することで支援体制を整えてほしい。</p>

(委員)

<A 評価>

現況をしっかりと把握できており、今後の方向性も決まっているため A 評価とした。今後ちゃんと実践されることを期待する。また、井戸端会議は行政側から出向き、積極的に情報を得ており良いと思う。これからも続けていただきたい。相談窓口も充実しているため、もっと市民に周知を図っていくこと。

(委員)

<B 評価>

福祉施策は先駆けて実施できており、力を入れて施策を展開しているイメージがある。就労支援について、現状やるべきことはやれていると思うが、さらに 1 歩踏み込んで、より充実したサービスを整備し、企業とも連携して行ってほしいという期待をこめて B 評価とした。

(委員長)

<A 評価>

成果指標が目標値に届いていないのは行政からも疑問に思うことだと思う。当事者の評価が高くない分析をしないと中間見直し・最終目標までに達成できないと思う。

しかしながら、少子高齢社会の中で、全体として適切に、且つきめ細かく事業に取り組んでいることが評価できる。ニーズが多様化する中で、個々の状況に応じた対応を引き続き進めていくことを希望する。また、精力的に各地区でサロン活動に取り組んでいる。サロンに顔を出さない、出せない市民へのアプローチについて引き続き検討いただきたい。

(委員長)

全体としての評価は、A 評価としてよろしいか。

※欠席者 2 名 A 評価

(全員)

異議なし。

(委員長)

最終的な評価の決定は次回 12 月 19 日の会議で行う。